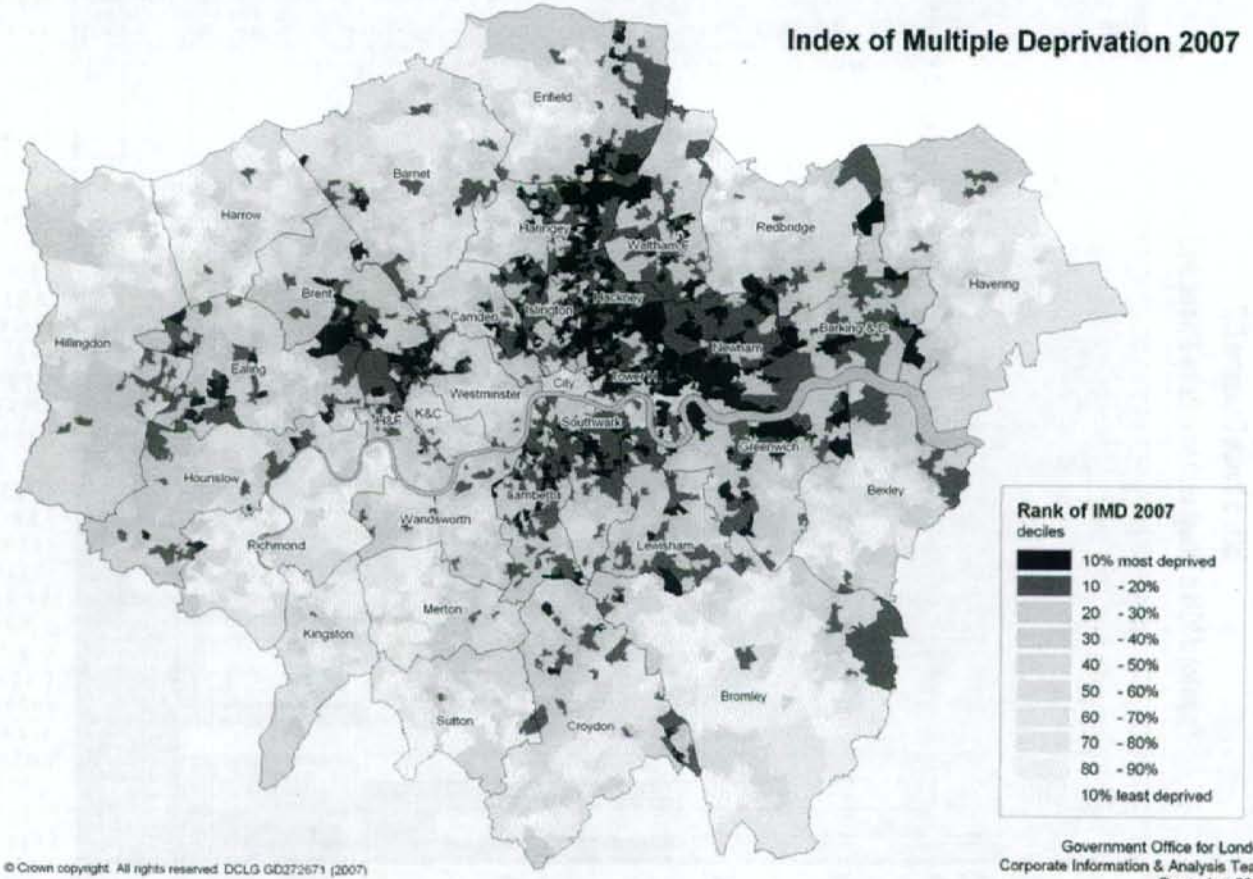
サザーク）にあるホーム・スタートを視察およびヒアリングする。以下の図と地図[5]は、イギリス政府が公表しているロンドン市の各地域の貧困度である。パーセンテージは貧困度を表しており、割合が高いほど貧困である。貧困度の指標は、Income（収入）、Employment（雇用）、Health Deprivation and Disability（健康の喪失や身体障害）、Education（教育）, Skills and Training（資格）、Barriers to Housing and Services（住宅供給やサービスの障害）、Crime（犯罪）、Living Environment（社会的・文化的生活環境）という７つの要素から構成されている。調査地選定は、貧困度の高い地域と低い地域、中間の地域に調査依頼をした。調査に応じてくださった５団体に訪問した。

もっともロンドン市において貧困度の高いHackneyは、自治体が貧困なため、資金調達の目途が立たず、解散の危機に直面していて多忙なため訪問許可を得られなかった。政策的に、自治体はシュアスタートや、チルドレンセンターのいろいろな施設や活動に資金を使わなければならなくなったからである。またこれまで寄付をしてくれていたソーシャル・サービスも、２年前に、すべての子どもに対する支援への寄付へと意向を変えたため、恒常的な資金繰りの目途が立たなくなったという。今年もチルドレンセンターを通した限られた予算に頼っていたが、現在は、ボランティアの研修をするための予算の目途がたたなくなってしまったという。このようにホーム・スタートは、一定の基準を満たす各地域独立した組織であるため、各地域の状況によって、その運営はかなり違ってくるといえる。

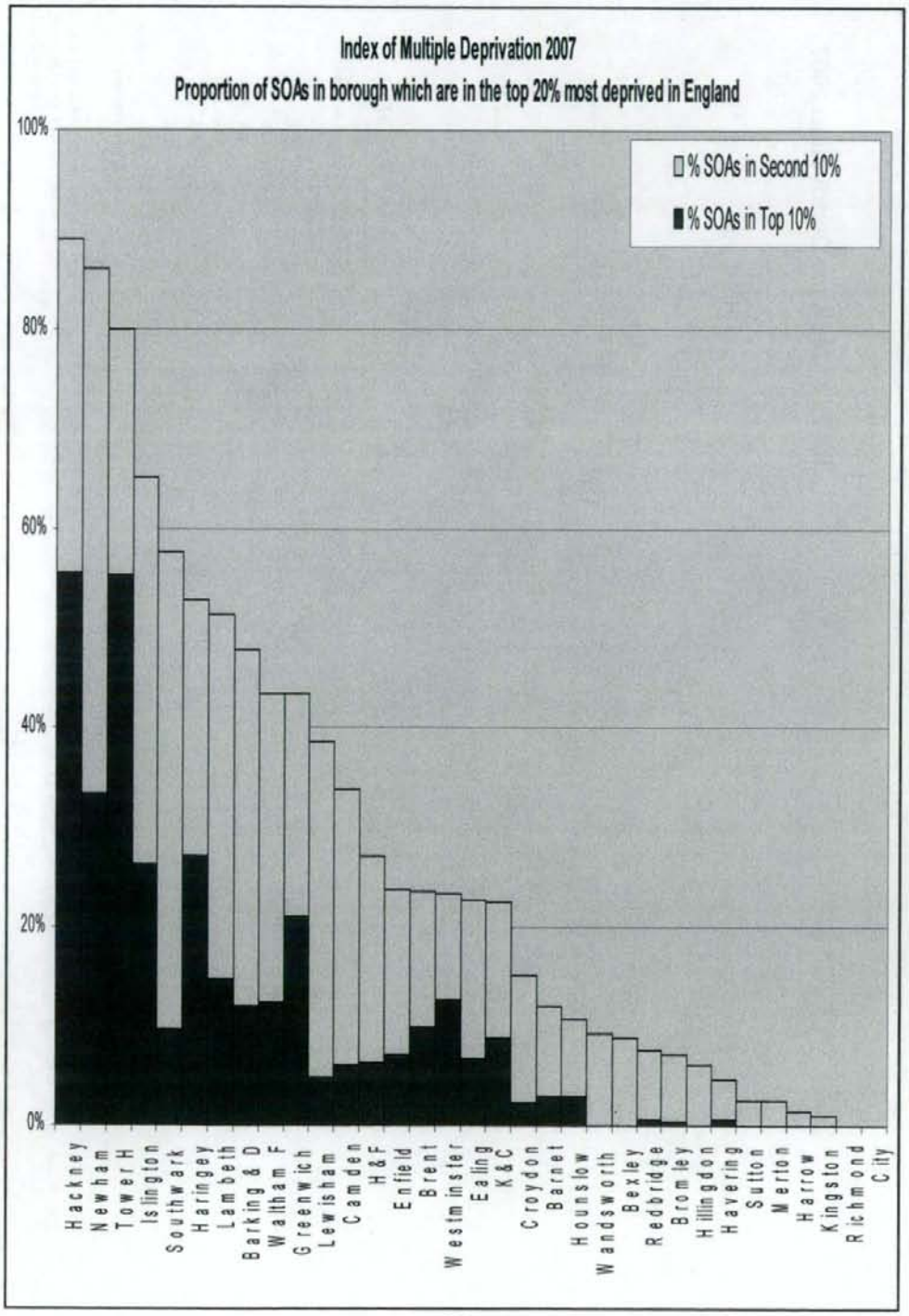
<調査地 2009 年２月９～12 日>

貧困度 33 地域中	地　域　名（スキーム名）	特　　徴	調査対象者
５位	Southwark（サザーク）	今回の調査地の中で、最も貧困度の高い地域である。	Co-ordinator, 2volunteers
７位	Lambeth（ランベス）	再開発地域を除き、犯罪が多発しており治安が悪い。	Scheme Head; Kathryn Beatham
１２位	Camden（カムデン）	有名人が多く住む裕福な居住地がある一方、ドラッグ関連犯罪、売春地域としても知られている。	Co-ordinator; Rosemary Palmer
１７位	Ealing（イーリング）	貧困度ランク中間。日本人企業駐在員の多く住む比較的裕福なエリア、大きなインド人街、平均的な住宅地である。	Co-ordinator; Louise
３３位	Richmond（リッチモンド）	ロンドン南西に位置し、もっとも裕福な居住地である。	Co-ordinator; Linda Haslam



© Crown copyright. All rights reserved. DCLG GD272671 (2007)

Government Office for London
Corporate Information & Analysis Team
December 2007


Index of Multiple Deprivation 2007
Proportion of SOAs in borough which are in the top 20% most deprived in England
% SOAs in Second 10%
% SOAs in Top 10%
100%
80%
60%
40%
20%
0%
Hackney
Newham
Tower H
Islington
Southwark
Haringey
Lambeth
Barking & D
Waltham F
Greenwich
Lewisham
Camden
H&F
Enfield
Brent
Westminster
Ealing
K&C
Croydon
Barnet
Hounslow
Wandsworth
Bexley
Redbridge
Bromley
Hillingdon
Havering
Sutton
Merton
Harrow
Kingston
Richmond
City

2）調査内容

聞き取りの柱は、以下の通りである。

①無償ボランティアの内実について（継続性と責任の所在）

②ボランティア団体の継続的な運営（特に財源の問題）

③地域および住民の貧富の格差がボランティア活動に与える影響について

調査の際、①～③の質問をそのまま問うのではなく、各スキーム（各地域組織）の現状と課題についてヒアリングしながら、①～③について考察する。

4．結果・考察

4－1．Home-Start Southwark（ホーム・スタート・サザーク）

（Unit 126 Camberwell Business Centre, 99-103 Lomond Grove,London SE5 7HN T:07940- 021-816）

4－1－1）概要

サザークは、ロンドン市の中心に位置し、市内33地区中で5番目に貧困度の高い地域である。

ホーム・スタート・サザークは、1995年に発足した。最初は、1人の呼びかけからはじまったが、現在はコーディネーターやボランティアを合わせて125名で活動している。ボランティアでもっとも多いのは、カリブ人やアフリカ人、ブリティッシュである。2007年から2008年にかけて155組の家族を支援した。しかし、他機関から照会された家族のうち30組が継続的な虐待やDV、トラウマによる精神的障害などの複雑なニーズをもっていたため、ホーム・スタートでは支援できなかった。また現在19組の家族が待機リストにのっている。また155組中、115組はひとり親家庭であり18家族の親は障害を持っていた。合計して401名の子どもを支援したことになり、そのうち307人は4歳以下である。家族の人種でもっとも多いのは、アフリカ人である。

2年前資金が足りなくなり、2人人員を削減した。資金は、毎年、毎回課題となる。メインの基金として、自治体からの補助金がチルドレンセンターを通して支払われる。他の団体へも、さまざまな資金を申し込んで寄付をもらっている。例年夏休みには、ボランティアと家族でコミュニケーションを図るため旅行に行っていたが、昨年は、資金不足で行くことができなかった。2007年は、チルドレンセンターからの補助金が、£210,143から£161,403に減少した（約3000万円から約2300万円へ：£1＝140円として。しかしグローバル経済の中、ポンドの価値はこの1年で約半減しているため額面よりさらに減収）。しかし、この地域にとってホーム・スタートの取組は非常に重要なものであるため、この活動の意義を理解してもらえるように努力している。

４－１－２）地域の家族を支えるホーム・スタートの意義

サザークでは、出産後、当日病院を出て行ってしまう母親がいる。男性も仕事を休めないことが多い。その時、母親は家で一人孤独になったり、産後うつになったりする。ホーム・スタートは、そのような母親の話し相手になる。孤独な母親は、自分が母親として失格、あるいは子どもをあまり好きではないという気持ちになってしまう。ボランティアは、そう思うのは、「いま」だから（いまの状態だから）であり、すぐに通り過ぎる、大丈夫だということを伝える。親は、実際に親になるまで、親になるトレーニングを受けてきていないので、どうふるまって良いかわからなくなる。ボランティアは、そのような親を支える。また親は自分が子どものとき、親にふるまわれたように、子どもにふるまう。もし、親が子どもの頃虐待を受けていたら、それを自分の子どもに繰り返してしまう。親は、孤独で気分が落ち込んだとき、特に虐待しそうになる。そのため、ボランティアが秘密厳守で、継続的に親と関係を作り、信頼を得るようにし、完璧な親なんてどこにもいないことを伝える。問題を抱えた多くの親が、地域の人と関わりあうときに感じることは、自分が親としてだめだから、赤ちゃんを取り上げられ、一緒に暮らせなくなるかもしれないということだ。ホーム・スタートは、友達だから大丈夫だよ、ということを伝え、孤独から救いだそうとする。また、ひとり親家庭も多く、孤立している。他にも出産後の母親のホルモンの状態を、父親はよくわからないので、母親だけに子育てを任せてしまう場合がある。この場合、母親は、自分の感情をどうしてよいかわからない。ホーム・スタートを利用することによって、親は、ボランティアに、そのような本音を打ち明けてくれる。母親は、早期に正しいサポートを受ければ、子どもへの虐待へエスカレートすることはない。

ただ、ホーム・スタートがサザークで活動しているからと言って、この地域の虐待が減ったわけではない。それ以上に、この地域には、非常に複雑な家庭が多い。複雑さの内実は、障害の問題（学習障害など）、ドラッグ、アルコール依存、精神的病気（躁鬱など）、難民、政治の問題、母国語の違い、ガンの問題（深刻な病気）など、いろいろある。もちろん、活動をすることによって、虐待を予防できたと実感することも多い。親は、ボランティアと話すと、かなり深刻な問題を話してくれる。ボランティアは、ソーシャル・サービスと連携をとりながら、子どもだけでもチャイルドプロテクションプログラムに組み込むことができる場合がある。

この地域は、もっとも貧困度の高い地域である。そして貧困と子どもの肥満はつながっており、ロンドン市において子どもの肥満度は最も高い地域の一つである。また世界のあらゆる民族が、世界のあらゆる問題を、この地域に持って移住してくる。一口で、サザークといっても、小さな地区に、それぞれの課題がある。たとえば、大きな精神科病院がある地区周辺には、ドラッグや、アルコール依存など、さまざまな病気のため入院し、ここの地区で生活する人々がいる。ある地区には、アフリカ人のコミュニティやソマリア人のコミュニティ、ベトナム人のコミュニティ、ラテンアメリカ人のコミュニティなど、さまざまな人種間の憎しみを持ちながら、すごく狭い地区で生活している。一方、すごく裕福

な人々が住んでいる地区もある。ここからも複雑なニーズが生まれている。たとえば、イギリスの白人が住んでいる地区は、人種差別をし、黒人と関わろうとしない人々もいる。このように、サザークという一つの地域の中に、あらゆる課題がある。

ホーム・スタート・サザークの理想は、私たちが、すべてのコミュニティにコミットし、関係を持つことで、さまざまなコミュニティのつながりをつくることである。またサザークには、ホーム・スタート以外にも、たくさんの支援活動がある。それらとの連携も必要である。だが、支援活動がたくさんあるだけでは、親は利用しようとしない（あるいはできない)。このような親は、チルドレンセンターにもアクセスしようとしない。ホーム・スタートは、家庭訪問型だからこそアクセスできる場合がある。

今後、料理を学ぶグループを作りたいが、資金不足である。家族をこのグループに連れてきて、栄養を学ばせ、買い物に連れて行き、料理し、試食し、それを家に持ち帰って、家事に役立ててほしい。そして家庭訪問し、定期的に子どもや家族の肥満を解消したい。

困っている親の多くは、他の組織から照会されて来る。もちろん、ホームス・タートに、親を関わらせることは、簡単ではない。親は、「今日は忙しすぎる」や、「疲れている」など、いろいろな理由を言って断ってくる。親にとって、ホーム・スタートは、「チョイス」の一つではあるが、私たちは、できるだけ親と関係が持てるよう努力を続けていかなければならない。

４－１－３）貧困地域におけるボランティアの専門性

ボランティアには、虐待防止の力量を必ずつけてもらうようにしている。ボランティアの研修をしても、複雑な家族を支えることができるボランティアと、できないボランティアがいる。ソーシャルワーカーとしての経験がある、あるいは自分も同じような経験をしたボランティアは、複雑な家庭にいきたがる場合がある。ボランティアは、どんな家庭に行きたいか選択することができる。コーディネーターは、ボランティアが活動をする前に、家庭の状況をできるだけ細かくボランティアに伝える。また、何かあったらいけないので、かならずコーディネーターが事務局に在籍しているときのみ、ボランティア活動をしてもらう。

ボランティアの活動の内容は、多岐にわたる。たとえば、難民として二人の子どもを連れて逃げてきた母親がいた。ボランティアが、彼女に、元気が出るために何がしたいかと聞いたら、「泳ぎたい」といった。ボランティアは、彼女を泳ぎにつれていった。この支援は、彼女にとってかなりのリフレッシュとなった。小さなことが、大きな差を生む。

ボランティアも家族も、もちろん完全で

はない。いちばん最初の訪問は非常に大切である。最初につまずくと、そのあと改善することはまずない。たとえば、ボランティアの子どもが体調を崩し、訪問できないことがある。それは、仕方がない。しかし、ボランティアによっては、研修だけ受けて、ボランティアをしようとしない人がいる。家族とマッチングしようとすると、いろいろな理由をつけて、ホーム・ビジティングをしようとしない場合がある。家族は、これまでの人生で多くの失望を経験している。だから、支援する必要がある。それなのに、もしボランティアが一度でも家族を失望させるようなことがあれば、もうそのボランティアには活動をさせない。ボランティアの中には、かなりすぐれたボランティアもいる。研修を続けていると、どのような人がボランティアとして適切か、どのような人がボランティアとして信頼できるかわかってくる。またコーディネーターとして、ボランティアを信用しようと努力している。しかし、それでも時折、失望させられることがある。ボランティアの多くが、自分自身も人生で傷ついてきている人が多い。ランティアは、家族と同じコミュニティから来ており、ボランティア自身も複雑な背景を抱えている。そのため、ボランティア自身のサポートが必要な場合もある。また、ボランティアの経験は、全国職業資格の単位となるため、その資格によって仕事をみつけるために、ボランティアの研修を受ける人もいる。１２人研修を受けると、そのうち３～４人は、ボランティアに適していないし、本人も活動しようとしない。ボ他の地域も同じような課題を抱えている。

ボランティアは、次のような理由から、ホーム・スタートを始めている。

<ボランティア A>

わたしは、ホーム・スタートにかかわっている友だちからこの活動を教えてもらい、自分もかかわろうと思いました。わたしは、10 代で子どもを産みました。自分とおなじ立場の人たちを支援するため、この活動をはじめました。私自身同じ経験をしているので、固定観念なく、同年代の親にかかわることができます。さらに、この活動は、仕事にもつながるのではないかと考えました。

<ボランティア B>

カレッジのスチューデントサポートで、この活動を知りました。以前、自分自身うつ状態があったので、同じ状態の人を助けられればよいと思いました。親が落ち込んでいるときに、話し相手になってあげたいと思っています。わたしは話すことと、子どもが好きです。このことが、人の助けになるのならうれしいです。関わることによって、自分自身の人生が豊かになりました。

４－２．Home-Start Lambeth（ホーム・スタート・ランベス）

(Unit 2 Holles House, Overton Road London, SW9 7JN　Tel :020 7924 9292)

４－２－１）概要

ランベス地域はロンドン市中央にあるサザークの左隣で、サザークに比較的似た地域である。ランベス北部、テムズ川の南側には、文化施設（劇場、コンサート会場等）、歴史的重要建築物（ランベス宮殿）などの再開発地域がある。再開発地域以外は、犯罪の多さと治安の悪さでよく知られている。ランベスは、ロンドン市貧困度７位の貧困地域である。多くの住民が、小さな住居に住んでいて住宅は混み合っている。この地域は貧困が課題であり、生活するのに不利な立場の方々が多いので、国が多くチルドレンセンターを建設した。

ホーム・スタート・ランベスは、困難を抱えた幼い子どもたちを持つ家族支援に興味のある小さなグループによって、1998 年に設立された。10 年間、イギリスでもっとも疎外された地域の一つであるランベスの家族を継続的に支援してきた。この地域では、関係機関から照会される家族の 90%以上は、少数民族である。この間、ホーム・スタート・ランベスは何百もの家族を支援し、スタッフによるホーム・ビジティング（家庭訪問）を行ってきた。2008 年から 2009 年に、ホーム・スタート・ランベスは 20 家族に対して家庭訪問、約 80 家族を集団で支援する予定である。次の二年間はさらに増えることが予期されており、ランベスの各家庭にとって、ホーム・スタートは、唯一欠くことのできないサービスとなっている。確実な寄付団体は、ランベス CYPS だけである。その他、毎年、寄付申請をし、2009 年に向けて、申請が通ったのは５か所ある（2008 年度はどこも通らなかったが）。

４－２－２）「照会」について

家庭内暴力は、イギリスにおいて、さらにランベスにおいても、とても大きな問題になっている。しかし、家に暴力的な家族がいるとわかると、ホーム・スタートの組織としては、ボランティアの安全のためにボランティアが、その家庭に行くことを勧めない。家族に、ホーム・スタートのファミリー・グループに来ていただいて、サポートする。時折、DV の家庭を、医者がホーム・スタートに照会し、コーディネーターが、家庭訪問をすることがある。そこで話を聞いて、家族がボランティアに来てほしいと思っているのか尋ねる。

ホーム・スタートの大きなキーワードは、「チョイス（選択）」である。家族は、「照会」されるが、かならずホーム・スタートを利用しなければならないわけではない。ソーシャルワーカーなどが家に来るのは強制かもしれないが、ホーム・スタートは公式ではなく、フレンドシップ（友だちになろう）ということを伝える。家族は、サービスを利用するかどうか選択ができるのである。ホーム・スタートの話をして、もし受け入れたければ受け入れればよいし、受け入れたくなければ受け入れなくて良いという。とにかく、問題を抱えているのは、自分だけではないということを、家族に分かってもらう。多くの人が問題を抱えていて、それは普通だということを伝える。家族を育て上げるのに、ルールはないので、やっていて、時々、すごく大変に感じることがある。ホーム・スタートのリーフレットのことは、すごく親しみやすく書いている。目標は、家族が地域の人々を信頼し、頼

ることができるようにすることである。

４－２－３）ボランティアの研修

ボランティアを訓練する方法は、ホーム・スタートが30年間蓄積してきたプログラムがある。また現在もさらに研修内容は深められている。ボランティアは４０時間のコースを研修している。基本的にはスキームのコーディネーターが講師となるが、より専門的な内容については、外部講師に依頼する。

研修内容は、どうやって家族たちと関わりあうか、秘密厳守などを議論する。たとえば、どのようなことを秘密にすべきか。たとえば、「前科がある」ということを家族が話したらそれは当然秘密厳守となる。他に「妊娠してしまいました」ということを家族が言ったら、それは良いニュースなので、秘密厳守ではないと考えてしまう。しかし、妊娠についても、その家族が歓迎していないことかもしれない。その場合、秘密厳守となる。また１６歳の息子がドラッグをしていることを家族が知ってしまった場合どうするか。この場合、１６歳で息子が子どもで守るべき存在なので、秘密厳守ではなく、外部に言う必要がある。家族は、近隣の方に、自分がどのような課題を持っているか知られたくないし、ボランティアのことを信頼してほしいと考えている。いろいろなシチュエーションで訓練していく。

幼い子どもたちにとって、遊ぶことが大切だから、遊びについても学ぶ。家族によっては、かなり多くの人数の子どもがいる場合がある。その場合、子どもを遊ばせていない場合がある。その場合、ボランティアは、ただ子どもたちと遊んだり、絵本を読んであげたりすることがある。たとえば、家族は、字が読めなくて、絵本を読んでない場合や、英語が第一言語でない場合があるためである。

４－２－４）ボランティアの責任と専門性について

多くのボランティアはすごく熱心であるが、時々、ボランティアは責任を放棄することもある。だからこそ、ボランティアはまじめでなければならないこと、６カ月は必ず続けなければならないことを研修において伝える。コミットメントの原則、かかわりあいの原則について理解してもらう。もし、家族が信頼しているボランティアが、家族を見捨て突然止めてしまうと、家族がどう感じるかをワークショップする。

ボランティアは、ホーム・スタートを経験し、家族支援の経験を得たいと思っている。その経験がキャリアとして、彼女らの職業につながる場合があるためである。イギリスでは、家族のサポートワーカーになる正式な資格がないので、経験が重要視されている。家族支援の経験を積んだら、コーディネーターとして就職できる場合がある。コーディネーターの職に就くと、勤務年限の制限はなく、その組織が続く限り働くことができる。

多くのボランティアは、研修を終えると、家族支援のことについてすべて知ったと思ってしまう。しかし、実際に現場に入り、家族支援を始めると、自分が知らないことがあまりにも多いことに気づく。

ボランティアの研修を受けることのできる資格は、必ずしも家族がいるか、子育ての経験をしているかだけではなく、子育て支援の経験があるか、など各地域（各スキーム）で厳しさが違う。ただ、子どもと過ごした経験もなく、子育て支援の経験もない人には、他のボランティアを勧める場合が多い。ホーム・スタート UK の基準は厳しいが、いくらか地域裁量がある。地域が違うと課題や状況が違ってくるので、それに応じた対応をできる部分がある。たとえば、ランベスには多くの公共の交通機関がある。ランベスでは、ボランティアには、できるだけバスを使うように言っている。他の地域では、車を運転する必要がある場合が多い。そういう部分が違ってくる。またホーム・スタートは交通費のみ支給している。しかし多くのボランティアは、交通費も必要ないと言い、いつも提供しようとしてくれる。そのためそのお金で、たとえばボランティア全員の研修日の昼食を用意したり、ファミリー・グループのクリスマスでレストランに行った時に使ったりしている。

４－２－５）ホーム・スタートの意義およびコーディネーターの専門性について

コーディネーターは、ホーム・スタート・ランベスから賃金をもらっている。賃金の出所は、地元の自治体と、ランベス特別区からもらっている。この地域は貧困地域だが、地元の支援があるので、成り立っている。この地域には、確実に、ホーム・スタートの必要性がある。しかし、行政の支援がないと、十分な資金が集められない。そのため、このプロジェクトの素晴らしさを訴え、地方自治体を説得する必要がある。多くのホーム・スタートは、このような努力を積み重ねている。貧困地域と、家族の問題はつながっており、本来ならば、この地域にはもっと大きなホーム・スタートの組織が必要である。この地域のホーム・スタートは、家族の課題に比べて小さすぎる。もちろん、他にもいろいろな支援団体があるが、このように個別の家庭を無償で、しかも継続的に支援できるのはホーム・スタートだけである。子どもたちのトイレのしつけや、ふるまいなどを指導するファミリー・アクションという有償の家族支援がある。しかし、それらは５回程度しか家族を訪問できない。ホーム・スタートは、６カ月や１年、さらにはそれ以上の期間家族を支える。そして、ボランティアなので、ファミリー・アクションよりも、もっとフレンドリーである。ボランティアは、家族が何をすべきというリストを作っているわけではない。ただ、話を聞くだけの友だちである。ボランティア自身も地域の人なので、その家族が、地域のどのような資源とつながったらよいか知っている。

ホーム・スタートを地域に作るには、16個の基準がある。すべてがホーム・スタートUKの基準に達しなければならない。つまり、現在ある、すべてのホーム・スタートは、よい品質を保っているということである。専門家ではなくボランティアが関わっているといっても、コーディネーターは賃金をもらっ

ていて、コーディネーターはプロフェッショナルになることが求められている。10 年前はもっとインフォーマルであったが、いまはできるだけ専門的な力量が求められている。給料も、地域によって違うが、ふつう 25,000～30,000 ポンド（約 35 万円～42 万円程度：1 ポンド 140 円の場合）の賃金が支給されている。もちろんボーナスはないが、公共の部門で働いている人と同じくらいの給料をもらっている。一般的に、このようなチャリティのみで働いている人は、自分の時間を持ちたいと思う。わたしたちには、２５日の有給休暇も用意されている。しかし、ホーム・スタートで働いている人々は、基本的に賃金を目当てに働いていない。たとえば、男性はあまりこのような仕事につかない。ホーム・スタートで仕事をしていると、今以上の昇給はない。それが男性にとって問題になるのかもしれない。ホーム・スタートで男性を見るのはめずらしい。また小さい子どもたちと仕事をすることもあるので、好まないのかもしれない。コーディネーターたちは、賃金のためではなく、家族が回復し幸せになるという、やりがいのために働いているのである。

４－３．Home-Start Camden（ホーム・スタート・カムデン）

（7　Dowdney Close　Kentish Town London NW5 2BP　Tel: 020 7424 1603）

４－３－１）概要

ホーム・スタート・カムデンは、1994 年に設立され、1995 年から活動が始まった。

事務所は、ファミリー・リソース・センター（Camden Family Resource Centre）内にあり、ほかの子育て支援団体と同居している。カムデンは、カムデンタウンのマーケット、有名人が多く住む裕福な居住地、ドラッグ関連犯罪、売春地域として知られている。貧困ランク 12 位であり、貧困地域の部類にはいる。

カムデンのスキームは、専従職員３人と、パートタイム職員３人で運営されている。運営費および賃金は、ナショナルロータリー（宝くじ）などの補助金や寄付によってまかなっている。資金は、地元の自治体からの補助金はないため、３年ごとにあらゆる寄付団体に申請して得ているため、資金集めは３年に１度の重要な課題である。

４－３－２）ボランティアの位置づけについて

ボランティアは、一週間で半日（４時間）以上働かない。他の日は、自分の生活のために働いている。ボランティアをするためには、収入が必要である。土曜日、日曜日は、もちろん自分のためにも働かないし、ボランティアもしない。フルタイムでボランティアできるのは、裕福な家庭だけである。また利用者である家族が、ボランティアに依存しては、本来のこの活動の目的を達成できない。この活動の目的は、家族が、さまざまなサービス（ドロップイン、チルドレンセンター）にアクセスできるよう力をつけ、家族が独立するように支援するのが、この活動の目的である。

ボランティアは、孤独感にさいなまれている家族に対して接触する。ボランティアは、家族が自分で地域とコミットできるように（コミュニティ精神を育むために）、家族と１週間に１回だけ会う。政府が国民に対して、強調している点は、国に精神的に頼らないということ。つまり、ボランティアが熱心なのは大切だが、熱心だからボランティアの賃金を保証しろというのは違う。ボランティアがフルタイムでボランティアの仕事をし、国に賃金を要求すると、国の財政を圧迫し、活動の自由度もなくなる。これは本末転倒である。イギリスでは、時間だけでなくお金もないとボランティアできない。たとえば、ボランティアになる人は、家庭で子どもを育てていて、働いていないので時間があるという方がボランティアすることができる。そのような人は、ボランティアを是非していただきたいと考えている。

利用者は、チルドレンセンターや医者などから照会を受け、その中の一定の人数が希望者となるが、ボランティアメンバーは、常に足りなかったり、多すぎたりする。

ボランティアは、研修を受け、訓練され、審査される。ボランティアになるためには、子育て、あるいは子育て支援関係の経歴があるかどうか、前科のチェック、肉体的・精神的チェック、ソーシャル・サービスのチェックなどがされる。

４－３－３）利用者について

親は、自分から来るというよりも、照会によってくることがほとんどである。そしてその親が、利用したいかどうかを自分で選択する。照会先は、チルドレンセンターや医者やファミリーセンターなどである。この活動は、行政や関係団体と連携しないとできない。そのためにはアウトリーチをし、ネットワークを作る必要がある。

４－４Home-Start Ealing（イーリング）

(EalingNortholt Family Centre 21 Cowings Mead NORTHOLT London UB5 5SA
Tel: 020 8842 1617)

４－４－１）概要

イーリングは貧困度ランクでちょうど中間に位置している。つまり平均的なロンドン市民の生活をしているといえる。イーリングには、日本人企業駐在員の多く住む比較的裕福なエリア、大きなインド人街、平均的な住宅地がある。イーリングには、イギリスでもっとも大きいヒースロー空港があり、職を求めて、様々な国からの移民が集まっている。

ホーム・スタート・イーリングは、1995 年に設立された。他の地域にあったホーム・スタートの活動がとてもよかったので、ボランティアが、この地域にもつくろうということになった。現在、７人の有給スタッフと、40 人のボランティアがいる。2007 年から 2008 年に支援した家族は 70 組である。照会先は、43%が保健師、15%が自分で、13%はソーシャル・サービス、６%がシュアスタートからであった。ここでは、ファミリー・グループと、両親のためのワークショップ（救急や子どもにどのような遊びをさせたらよいか）、ボランティアの研修、そしてホーム・ビジティングを中心に行っている。助成金は７か所から、その他に寄付を 25 か所から受けている。多くの助成金を得たため、ボランティや家族と一緒に旅行をしたり、健康を祝う会を行ったり、クリスマスパーティーを行ったり、他にもいろいろなイベントを実施することができた。また地域住民が、何百もの子どもへのクリスマスプレゼントを寄付してくれ、クリスマスを二か月も過ぎたいまもまだ残っている。施設内には、多くのパソコンが設置してあり、サザーク、ランベス、カムデンの施設と比較して、イーリングの施設はとてもきれいであった。施設は自治体が設置しており、ファミリー・サポート・サービスなど、様々な子育てに関わるサービス団体が同居し、連携していた。

４－４－２）多言語と若い両親に対するボランティの対応

先述した通り、イーリングは、ヒースロー空港があるため、海外からの移住者が多く、いろいろな第一言語を持つ親がいる。たとえば、アジアの言葉や、東ヨーロッパ、中近東、タミル語等々である。いろいろな民族の移住者が、イーリングに住もうとする。多様な言語を話す親たちと、同じ言語を話すボランティアを探すことが非常に難しい。設立当初は、ヒンディー語を使う両親が多かったが、いまは言語がどんどん増えている。またボランティアの評判がよく、

その情報を得た親たちが、サービスを受けたいと言ってくるので、ボランティアは常に足りない状態である。

子育てに関わる様々なサービスが連携し、親を支えるが、すべてのサービスが連携しても、子どもの育つ環境が整えられなかったならば、子どもたちは親から取り除かれる。この段階になるまえに、予防した方が良いという考えからホーム・スタートが始まった。活動の効果はかなり出ている。子どもたちに対しても良い影響を与えている。楽しい親がいれば、楽しい子どもがいる。うつ状態にもいろいろな段階があり、産後うつ程度のうつ状態には、ボランティアが関わることができる。もちろん、ひどいうつ状態であれば、他機関に照会する。イーリングには裕福な地域もあるが、たとえばノーソルト地区（Northolt）は、10 代の妊娠率がとても高く、低所得層が住んでいる。ホーム・スタート・イーリングへ紹介される親の 5 割以上は、この地域からである。両親が若い場合、子育て困難に陥っていることが多い。しかし、若い両親は、年配のボランティアが家庭訪問することを嫌がる傾向がある。そのため、できるだけ若い両親が、友だち感覚でホーム・スタートを利用してくれるように、できるだけ若いボランティアをマッチングする。

ボランティアにはできるだけ継続して関わってもらうようにお願いしている。ボランティアが無理をせずに活動を継続できるように、活動は一週間で二時間だけでも良いと言っている。ボランティアを集める工夫が課題である。

４－５　Home-Start Richmond（リッチモンド）

(RichmondParkway House Sheen Lane　EAST SHEEN　London　SW14 8LS　Tel: 020 8487 8500)

４－５－１）概要

リッチモンドはロンドン南西に位置し、裕福な居住地として知られ、最も貧困度の低い地域である。ホーム・スタート・リッチモンドは、1995 年に一人のコーディネーターが始めた。2007 年～2008 年にかけて 110 組の家族、そして一緒に生活をしている 220 人の子どもたちを支援した。照会先で多いのは、保健師 56%、自己申告 23%、ソーシャル・ワーカー12%である。60 人の非常に熱心なボランティアが、年間 5,800 時間活動している。ひとり親家庭は、46 か所で、それと同じくらいの数の身体的・精神的障害を持った家族を支援した。また支援した家族はアジア系、黒人、南アメリ

カ、アラブ系、中近東など様々な民族的バックグランドを持っている。そして多くの家族が、子どもの福祉に悪影響を与える複雑な要素を持っている。たとえば、家族のニーズとして上位３つは、「孤立」「親の情緒的・身体的の問題」「子どもの情緒的・身体的問題」である。事務所施設は、今回訪問した５地区の中で最も近代的な設備を備えていた（きれいなビルディング、オートロック、エレベーター等)。活動のための収入は、自治体からチルドレンセンターを通して支給される£75,000を中心に、その他12か所から寄付を得ている。2008年度総予算は、£151,899（約2000万円：１£＝140円の場合）であった。

４－５－２）裕福な地域の子育て課題とボランティアの専門性

リッチモンドは、裕福な地域であるが、一部は貧困である。裕福なイメージがあるから、寄付を募るのが非常に難しい。リッチモンドの貧しい人たちは、裕福な人々の隣に住んでいる。外から見ると、すべてが裕福のように見えるため、当事者の感情は複雑である。日本人も住んでいるし、日本人ボランティアもいる。ただ日本人の家族と関わりあうのは、プライベートの部分を大切にするのでいろいろな困難を伴った。ファミリー・グループも実施している。リッチモンドは、裕福なのでシュアスタートがない。他の地域は、自治体がシュアスタートに資金をつかっているが、リッチモンドは、ホーム・スタートに使ってくれた。いまはチルドレンセンターができたので、自治体がチルドレンセンターを通して資金を提供してくれる。

ただ、子育てに困難を伴うのは、貧困だけではない。リッチモンドの家族のニーズでは、孤立が多い。そのため、ファミリー・グループで元気づける。また、子育て支援に関係するどんな資源が、リッチモンドにあるかを伝える。そのため、ホーム・スタートは、地域のいろいろな機関や組織と連携する。コーディネーターは、一度ボランティアの経験をしている人ばかりである。そのようなバックグラウンドがないと、コーディネーターは務まらないし、さらにコーディネーターの訓練を３日間泊まり込みで受ける。

ボランティアがいるため、小さな予算で、サービスが提供できる。虐待等をしている家族にとって、手助けを求めることは非常に難しい。手助けを求めることは、自分が子育てできていないことを、他の人に知らせることになり、責められてしまうと考えてしまうためである（スティグマがある)。ホーム・スタートだけではなく、リッチモンドにはいろいろな選択肢がある。

ボランティアの研修として、多様性を許容し、差別しないこと、価値観を否定しないことを育成する。事例を出して、ボランティア自身がどのように考えがちかのワークショップをする。例えばどうやって親を手助けしたら良いのかについて「10代の母親は、国からの生活や住居手当をもらうべきではなく、子どもたちは養子に出すべきだ」という事例があり、それについてボランティアが議論する。これはボランティアが、自分の価値観で判断しないための訓練である。また自分以外のいろいろな考え方があることを知ってもらうためである。このようにホーム・スタートは、ボランティアの研修システムが整っている。

5．まとめ

ロンドン市の貧富格差のある５地域（カムデン、ランベス、イーリング、リッチモンド、サザーク）にあるホーム・スタートを視察し、①無償ボランティアの内実について（継続性と責任の所在）、②ボランティア団体の継続的な運営（特に財源の問題）、③地域および住民の貧富の格差がボランティア活動に与える影響について、を柱にヒアリングした。

５－１．①無償ボランティアの内実について（継続性と責任の所在）

貧富の格差は、まったく違う地域課題を生み出している。多様に広がるニーズに、継続的に「信頼できる友人」として関わるボランティアの意義は大きい。また無償だからこそ、回数を気にせず関わることができるのは魅力である。そのために、ボランティアの研修の充実は欠かせない要素である。またコーディネーターの待遇が日本と比較して非常に良かった。このことが、活動の継続性と責任の所在に寄与している部分は大きい。

５－２．②ボランティア団体の継続的な運営（特に財源の問題）

イギリスは、日本以上にチャリティー（寄付）が活発である。また現在のイギリスの政策が、かなりの予算を子育て支援に投じている。それでも、自治体の財政状況によって、ハックニーのように継続的な活動が困難な場合がある。財政が厳しくとも、ホーム・スタートの意義を理解する自治体の力量が必要である。

５－３．③地域および住民の貧富の格差がボランティア活動に与える影響

同じ地域に住むボランティアの課題は、親の課題と同じである。①と同様、ボランティアへの支援が必要である。貧困地域には深刻なケースがおおかった。深刻なケースに対して関係機関の連携が必須である。

---

[1] 西郷泰之『ホーム・ビジティングの挑戦』八千代出版、2006年参照。

[2] １と同書、目次viiページ８～10行目引用。

[3] １と同書参照。

[4] １と同書参照。および『諸外国の教育動向2007年度版』文部科学省、2008年。『就学前教育のあり方に関する海外調査』株式会社日本総合研究所、2004年。岩間大和子「英国ブレア政権の保育政策の展開－統合化、普遍化、質の確保へ－」『レファレンス』4月号、2006年。金子恵美「英国における教育・子育て支援の動向－すべての子どものために：子どものための改革－」『マイデックス』1月号、2007年。

[5] Government Office for London「Indices of Deprivation 2007」
http://www.londoncouncils.gov.uk/economicdevelopment/briefings/IndexofMultipleDeprivationIMD2007.htm

＜各地の参考資料＞

○Home-Start Ealing「Home-Start Annual Report 2007-2008」
○Home-Start Lambeth 「Home-Start Lambeth Strategic Plan 2008-2011」
○Home-Start Southwark「Home-Start Southwark Annual Report 2007-2008」
○Home-Start Camden「Home-Start Camden 13th Annual Report 2007-2008」
○Home-Start Richmond「The best start in life –Home-Start Richmond upon Thames Annual Report 2007-08」

【連絡先】
佐賀女子短期大学こども学科
専任講師　東内　瑠里子

学校法人　旭学園　佐賀女子短期大学
〒840-8550 佐賀市本庄町大字本庄1313番地
TEL0952－23－5145　FAX0952－23－2724
ruriko@asahigakuen.ac.jp

平成 21 年 3 月 23 日発行